

NPO の皆様へ：

>> 「熔融塩炉はもちろん原子炉ですから高濃度放射性廃棄物は出ますから、

>> その廃棄処理処分に問題があります

10 年位前、米国で（原子力専門家でない）技術者が、Th 熔融塩炉を推進

するのに「クリーンな原子炉」という噴飯物のキャッチフレーズを

述べていました。

上記の批判の 1 行目は、恐らく「そういう嘘宣伝を発見した」と考えた

方の指摘だろうと思います。

古川和男先生が良く言われていた「生半可な知識のヒケラカシ」の

類です。

1 行目の指摘が正しいと思うなら、もう少し、掘り下げて勉強すれば

良かったのです。

2020-10-12、吉岡律夫

=====

=

> 本件については、既に、当 NPO の下記サイトに記述しています。

> <http://msr21.fc2web.com/others.htm>

>

> 核分裂を利用する限り、核分裂生成物(FP;Fission Product;いわゆる死の灰) が

> 生成します。

> これらは強い放射能を出しますが、強い放射能とは、半減期が短い元素によるもので、

> 例えば福島事故で問題となっているセシウムの半減期は約 30 年です。

> これらは人間社会で管理できる年数で減衰します。

> つまり、数万年以上の半減期の長寿命核種が重要な問題なのです。

>

> Th 熔融塩炉では、長寿命放射能核種の超U元素 (Pu,Am,Cm など) がほとんど生成されず、

> 逆にそれらを燃料塩に溶かし有効利用しつつ消滅処理が可能です。

> 種々のアクチナイドや核分裂生成物の一部も炉内からほとんど分離不要で、炉内自然消滅を

- > 推進できて、高レベル廃棄物問題は大きく改善できます。

- >

- > 人類の問題となっている Pu は（原子炉によって生成する）中性子を当てる以外に、

- > 消滅させる方法はありません。

- > Pu を新たに生み出さず、Pu を消滅させるには Th 熔融塩炉が必要なのです。

- >

- > なお、熔融塩炉は熱効率が軽水炉より 3 割高いので、同じ発電量で比べると、FP 発生量は

- > 軽水炉より 3 割少ない、という特長があります

- >

- > 所で、上記の処理概念は 1970 年頃に ORNL が提案しました。

- > 但し提案しただけで、処理装置を実証したわけではありません。

- > その後、ロシアがフリガット計画として引継ぎ、チェコに命じて研究続行を

- > させています。

- > 熔融塩炉の使用済み燃料の処理に必要な施設なので、熔融塩炉の導入と平行して

- > 研究開発や建設を進めれば良いと考えています。

- >

> 2020-10-12、吉岡律夫

> -----

> NPO 法人「トリウム熔融塩国際フォーラム」のホームページは下記。

> <http://msr21.fc2web.com/>

> このメーリングリストの管理人へ連絡する時は、

> <ritsuo.yoshioka@nifty.ne.jp>宛てにメール下さい。

> このメールは Google グループのグループ「トリウム熔融塩国際フォーラム」の登録者に送られています。

> このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには

itmsf+unsubscribe@googlegroups.com にメールを送信してください。

> このディスカッションをウェブ上で閲覧するには、

<https://groups.google.com/d/msgid/itmsf/20201012083922.DBA4.RITSUO.YOSHIO>

KA%40nifty.ne.jp にアクセスしてください。